



脳機能の温存・再生へと 最先端医療に挑む

京都大学脳神経外科では、“For the Patient(患者さんのために)”を旗頭に、治療困難な脳神経疾患に対する最先端医療を提供し、その治療成績は高いレベルである。最先端の手術室には、血管撮影装置、術中3T-MRI、移動型CTを設置し、安全で正確な手術治療を実践できる環境が整備されている。十分なインフォームド・コンセントの上で新たな治療法の開発にも取り組んでいる。多施設共同臨床研究、ES・iPS細胞による再生医療、ロボットテクノロジーによる機能再生、最先端の基礎研究から臨床研究への応用も推進している。

代表的診療対象疾患

I. 出血性脳血管障害

脳動脈瘤、脳および脊髄動脈奇形、硬膜動静脈瘻、海綿状血管腫など

II. 閉塞性脳血管障害

もやもや病、内頸動脈狭窄・閉塞症、脳梗塞、一過性脳虚血発作など

III. 脳および脊髄腫瘍

神経膠腫、悪性神経膠腫、神経膠芽腫、髄膜腫、下垂体腺腫・ラクタ嚢胞、聴神経腫瘍、頭蓋咽頭腫、転移性脳腫瘍、胚細胞腫、髄芽腫、松果体腫瘍、血管芽腫、上衣腫、悪性リンパ腫など

IV. 機能的脳障害

難治性てんかん、顔面痙攣、三叉神経痛、パーキンソン病など

V. 小児奇形・水頭症

VI. 脊髄腫瘍・脊椎疾患

VII. 頭部外傷

慢性硬膜下血腫、急性硬膜外血腫、急性硬膜下血腫など

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

一般外来と新患外来の他に、専門外来を設けている。専門外来には、もやもや病・脳血管狭窄、頸動脈疾患、血管内治療、てんかん外科、脳腫瘍・高精度放射線治療、小児脳腫瘍、神経心理、DBSパーキンソン、下垂体腫瘍がある。年間受診者数は14,000人以上、初診患者数は1,000人以上であり、病状に応じた迅速な対応(検査、入院)が可能である。

入院診療体制と実績

旧南病棟3階に一般病床50床、SCU6床を有する。年間入院数は1,200人以上、手術件数は600件以上である。治療困難な脳動脈奇形、巨大脳動脈瘤、もやもや病、グリオーマの治療のパイオニアである。脳・脊髄腫瘍では、がんセンター内に脳腫瘍ユニットを有し、各がん診療科との連携を生かした集学的治療を行う。難治性てんかん、パーキンソン

病では、神経内科と機能外科チームを組織し診療している。覚醒下手術、高磁場MRI機能解析、脳機能マッピングを用いた機能温存手術を得意とする。また、脳卒中診療部を運営し、地域の脳卒中診療・脳卒中啓発にも重点を置いている。



高度先進医療の取り組み

先進医療による確かな実績

当科では、保険診療で認められている水準を超えた、先進医療に含まれる診断・治療を行い、実績を上げている。

- ①もやもや病に対する外科的治療
- ②脳血管内手術(塞栓術、拡張術、血管形成術、ステント留置術など)
- ③悪性脳腫瘍に対する新たな放射線療法併用化学療法と遺伝子診断に基づく抗がん剤感受性の評価

- ④脳磁図を用いた脳機能局在の術前評価
- ⑤硬膜下電極埋め込みによるてんかん焦点の同定および脳機能局在の評価
- ⑥覚醒下手術
- ⑦高磁場MRI装置による画像診断
- ⑧術中3T-MRI・ナビゲーション装置による脳機能温存手術
- ⑨神経内視鏡手術